令和３年度

vol.12

学校歯科委員会だより

一般社団法人青森県歯科医師会
令和４年２月28日

巻頭言

一般社団法人青森県歯科医師会 学校歯科委員会 委員 **久米田讓**(北五歯科医師会)

前首相が「子供・若者たちに夢と感動を与えるオリンピックを開催したい。」と新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、東京オリンピックが開催された。感染症を防ぐため、無観客で行われたがスポーツ選手にとって自分のパフォーマンスする姿、世界新記録更新に挑戦する姿を大観衆の中で見てもらい、その結果としてメダルを獲得する事を目標に、４年間練習に励んできたはずです。観客は、全世界で活躍する選手を間近で見られる事で、より以上の興奮と自分自身の夢を叶えたいという希望が持てるのではないでしょうか。

また、無観客だった事で発見出来た事もありました。大観衆の応援・拍手は聞こえなかったが、選手の声・ボールの音・選手の気迫の息音など臨場感溢れるテレビ観戦でした。「がんばれニッポン」として金メダル27個・銀14個・銅17個 計58個を獲得しました。フェンシング・女子バスケットボールなど今までメダルを獲得する事が出来なかった競技、新種目のスケートボード・サーフィンなどメダルを獲得し、大成功に終えることが出来ました。メダルを獲得したことで子供たち・若者たちがスポーツ教室に通い競技人口の拡大に大いに貢献したと思います。

一方、感染者も新型コロナウイルス感染症ワクチン接種のおかげで８月には一日あたり２万人～２万５千人の感染者報告がありましたが、徐々に減り 10 月には数百人規模まで減少し、少しずつではありますが８月から減少傾向にありました。しかし、12 月に入るとオミクロン株に変異したウイルスが徐々に日本でも確認され第６波が懸念され、まだまだ予断を許さない状況です。３回目のワクチン接種も８か月後から６か月後に前倒しとなり、我が国でも予防体制万全を期しているところです。

学校生活においては、運動会・クラブ活動・学校行事などが中止または縮小になるなど、生活に制限が加わり毎日マスクを装着し検温の報告など子供たち・親御さんにとっては、多大なストレスになっていると思います。そして、感染防止の為に給食後の歯みがきも無くなったおかげで学校歯科健康診断を行ってみると、むし歯・歯肉炎が増えているような気がしました。診療室においては、子供のフッ化物塗布を希望する親御さんが増えたようにも思われます。

とにかく、一刻も早く新型コロナウイルス感染症が終息し普段の学校生活を取り戻して欲しいです。

令和３年度

歯科保健図画・ポスター・歯科啓発標語コンクール 結果

図画・ポスター・標語　特選作品

保育園の部
大杉平保育園（八戸市）
山口愛來さん

幼稚園の部
幼保連携型認定こども園
深沢保育園（おいらせ町）
工藤瑛斗さん

小学校低学年の部
十和田市立藤坂小学校３年
苫米地煌大さん

小学校高学年の部
八戸市立豊崎小学校５年
山下絵鈴さん

中学校の部
八戸市立根城中学校３年
前田楓月さん

特別支援学校の部
青森県立八戸聾学校 中学部２年
柴田菜々子さん

治療しよう　そうじゃなくて 予防しよう　むつ市立田名部中学校２年　伊藤 紗英さん

報告

令和3年度 青森県学校歯科保健研究大会

～児童生徒の生活習慣を口腔衛生の立場から考える～

日時：令和３年７月29日（木）　場所：青森市「青森県歯科医師会館」および動画視聴
主催：青森県教育委員会・青森県歯科医師会　　共催：青森県学校保健会

青森市歯科医師会　専務理事 **村田　浩伸**

令和３年7月29日（木）青森県歯科医師会館において開催された青森県学校歯科保健研究大会について報告いたします。

令和３年度の青森県学校歯科保健研究大会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となったところですが、令和３年度は次に記載してする項目を感染防止対策として考慮し開催する運びとなりました。

①密の回避、マスクの着用

参加者は青森県歯科医師会館に来場される場合、１校に一人に限定とし、マスクを着用。さらに、動画配信（配信は８月中旬以降の１か月間）での参加も募り来場者の人数を減少させる。会場の換気を図る。

②開催時間の短縮

○開会行事の中止
青森県教育委員会教育長　和嶋延寿先生
一般社団法人会長青森県歯科医師会　福士賢治先生
主催者として両先生の挨拶文を大会プログラムに掲載
○歯科保健調査報告の発表を中止して書面での報告
○事前の質問事項の回答の発表を中止して書面での報告
○昼休み、昼食時間削除で開会から閉会まで休憩換気を入れて通しで開催。昼食時のマスクの着脱の機会を回避

参加者数（93名）

○当日来場者（19名）
幼稚園：１名　小学校：９名　中学校：４名
特別支援学校：１名　教育関係者：１名(教育事務所)
歯科医師：１名　歯科衛生士：２名

○動画配信（57名）
幼稚園：１名　小学校：20名　中学校：７名
高等学校：４名　特別支援学校：１２名
行政保健師：１名　保健所：３名
歯科医師：４名　歯科衛生士：５名

○大会関係者（17名）講師・発表者含む

大会テーマ「児童生徒の生活習慣病を口腔衛生の立場から考える」で開催されました。

今大会は９時40分の受付から始まり10時から実践発表が行われ、３名の先生より発表がありました。

児童生徒数が400名を超える学校から、100名以下の学校までそれぞれですが、各学校共に特色のある歯科保健活動に取り組んでいて、青森県口腔保健支援センターや、青森県歯科衛生士会より講師を招いての講話の実施、給食後の歯みがきの実施、咀嚼力判定ガムを使用した咀嚼の重要性の理解を深める指導を実施している学校もありました。また、特別支援学校ではフッ化物塗布、洗口の実施や、健診に慣れることまたは積極的な歯科受診勧奨の目的で年２回の歯科健診実施の報告がありました。

各学校において一定の成果が上がっているようですが、新型コロナウイルス感染防止への配慮での受診控え、マスクをはずして行う学校保健活動の停止により歯肉炎の割合の増加、口腔清掃状態の悪化があり、課題として、感染流行のなかでのしっかりとした感染防止対策を行なって、歯科保健活動をして実施していくことを検討する必要があるということが述べられました。

続いて、休憩、換気のあと、11時から午後１時まで、「口腔機能発達に、学校歯科保健の力が動く！」～現場でできる機能発達～　を演題に、全国小児歯科開業医会　会長　土岐志麻先生より講演がありました。

青森県小児歯科勉強会の立ち上げから、発達障害のお子さんが歯科治療を受ける際の注意事項など個別に記入されたサポートブックの紹介から、口腔機能発達不全症の説明、さらに子供の現状として「お口ぽかん」による口呼吸のデメリット、乳幼児期に獲得されるべき摂食嚥下時の舌機能、正常な舌機能を得られない場合の歯列への影響、さらに摂食時の正しい姿勢、食卓、椅子、使用する食器類の選択の重要性についてのお話しがありました。スポーツ飲料の常用によるむし歯の問題、そして舌の正しい位置の獲得のためのトレーニング、お口と全身の筋肉を使った健康体操の解説がありました。

令和３年８月現在、緊急事態宣言下で東京オリンピックが開催され後、COVID-19の流行拡大はとどまるところ知らずの状況の中、県民の生活や歯科医療機関における診察、学校教育においても様々な制約が課せられる現状であっても、今後はこの状態が日常と捉え、その中で、健康寿命延伸のためにも最良の保健活動、啓発活動を模索し遂行していかなければならず、今回の実践発表、講演は大いに参考となる内容でありました。

大会内容
【実践発表】
「小学校、中学校、特別支援学校における歯科保健活動の実践について」
発表者
小学校／青森市立油川小学校　養護教諭　今　明子氏
中学校／佐井村立佐井中学校　養護教諭　山本節子氏
特別支援学校／県立森田養護学校　養護教諭　板垣ひさこ氏

【講　　演】
「口腔機能発達に、学校歯科保健の力が動く！」
～現場でできる機能発達～
講師：全国小児歯科開業医会　会長　土岐　志麻氏

報告

令和３年度　青森県学校歯科保健優良校表彰結果

※敬称略

	小学校		
	小規模校の部（0〜7学級）	中規模校の部（8〜15学級）	大規模校の部（16学級以上）
県　一	平川市立竹館小学校	青森市立浪岡北小学校	三沢市立三沢小学校
準県一	八戸市立明治小学校	六ヶ所村立南小学校	三沢市立岡三沢小学校

	中学校	
	小規模校の部（0〜10学級）	大規模校の部（11学級以上）
県　一	八戸市立南浜中学校	応募なし
準県一	三沢市立第三中学校	

	高等学校の部	特別支援学校の部	幼稚園の部
県　一	応募なし		
準県一			

令和３年度　歯・口の健康児童表彰の県審査会への推薦はありませんでした。

第60回 全日本学校歯科保健優良校表彰結果

優秀賞（文部科学大臣賞）　青森県立森田養護学校

奨励賞　三沢市立木崎野小学校　青森市立甲田中学校

令和３年度各種事業等の対応

今年度も、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い各事業が変更や中止となりました。詳細は下記のとおりです。

【募集関係】

■図画・ポスター・標語コンクール

締　切：令和３年６月30日（土）

審査会：令和３年７月４日（土）

○特選・金賞作品展（表彰式同時開催予定）→中止

■歯・口の健康児童および青森県歯科保健優良校表彰

歯・口の健康児童表彰　→　推薦者は一律入選とする

青森県歯科保健優良校表彰　→　締切を延期し実施

県審査会締切：令和３年９月３日（金）

→　令和３年12月24日（金）に延期

書類審査会：令和３年９月25日（土）

→　令和４年１月22日（土）に延期

■青森県歯科保健表彰式

令和３年10月31日（日）開催予定　→　中止

【大会関係】

■青森県学校歯科保健研究大会（変更なし）

（青森市／青森県歯科医師会館　ハイブリット開催）

令和３年７月29日（木）

■第85回全国学校歯科保健研究大会（東京都）

令和３年10月21日（木）　→　オンライン開催

■令和３年度全国学校保健・安全研究大会

（岡山県岡山市）

令和３年10月28日（木）〜29日（金）

→　ウェブ開催

■第71回全国学校歯科医協議会

（岡山県岡山市）

令和３年10月28日（木）

→　ウェブおよび書面開催

報告

令和２年度歯科保健調査報告

令和２年度の学校歯科保健統計より

学校歯科委員会 委員 千代谷良子
（むつ下北歯科医師会）

新型コロナウイルス感染拡大を理由とし昨年度の学校歯科健診は、多くの学校で延期され、その後の実施まで時間を要することとなり、令和２年度の全国統計データは例年よりも４か月遅れた令和３年７月２８日に公表された。

青森県学校歯科保健統計（令和２年度）によると、12 歳児の永久歯の１人当たり平均むし歯（う歯）等数は 1.08 本で、令和元年度より 0.07 本減少し、過去最低を更新した。

1.08 本の内訳は喪失歯 0.01 本、むし歯 1.07 本（処置歯 0.64 本、未処置歯 0.42 本）である。

県内のう歯被患率（処置完了者、未処置歯のある者）は小学校 51.4％、中学校 42.4％、高等学校 49.5％でいずれも低下している。

地区別では、ほぼ各年齢層にわたり東青地区は被患率が低く、西北地区は高率であり、その差は約 20％に及び、各地区に共通して 12 歳前後以降のう歯被患率が急増することから、中学・高校時期の学校歯科保健活動が大切になると思われる。

新型コロナウイルス感染拡大により、学校現場では「昼食後の歯みがきの実施や歯科指導の染め出しができず、今後のう歯・歯肉炎増加が心配」との養護教員からの声が寄せられている。

また、要受診とされたにも関わらず、必要な受診ができていない子供の増加が懸念される。

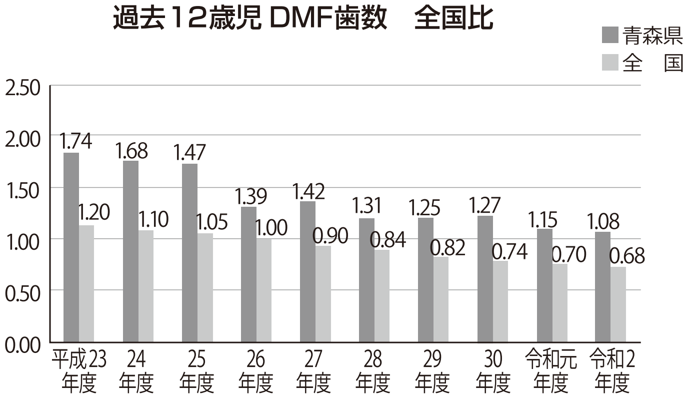
未受診の背景には「健康状態に対する親の理解不足」「共働き」「経済的困難」「ひとり親家庭」「無関心」など家庭の問題が解決されない中、今回コロナ禍により「感染の恐れを理由にした受診控え」が加わり、健康状態の悪化が危惧される。子供の健全な成長・発達を保障するうえで必要な受診を促すことを目的として、学校・保護者・医療関係者・地域が連携した積極的な対応が求められる。

永久歯の１人当たり平均う歯等数（12 歳児）

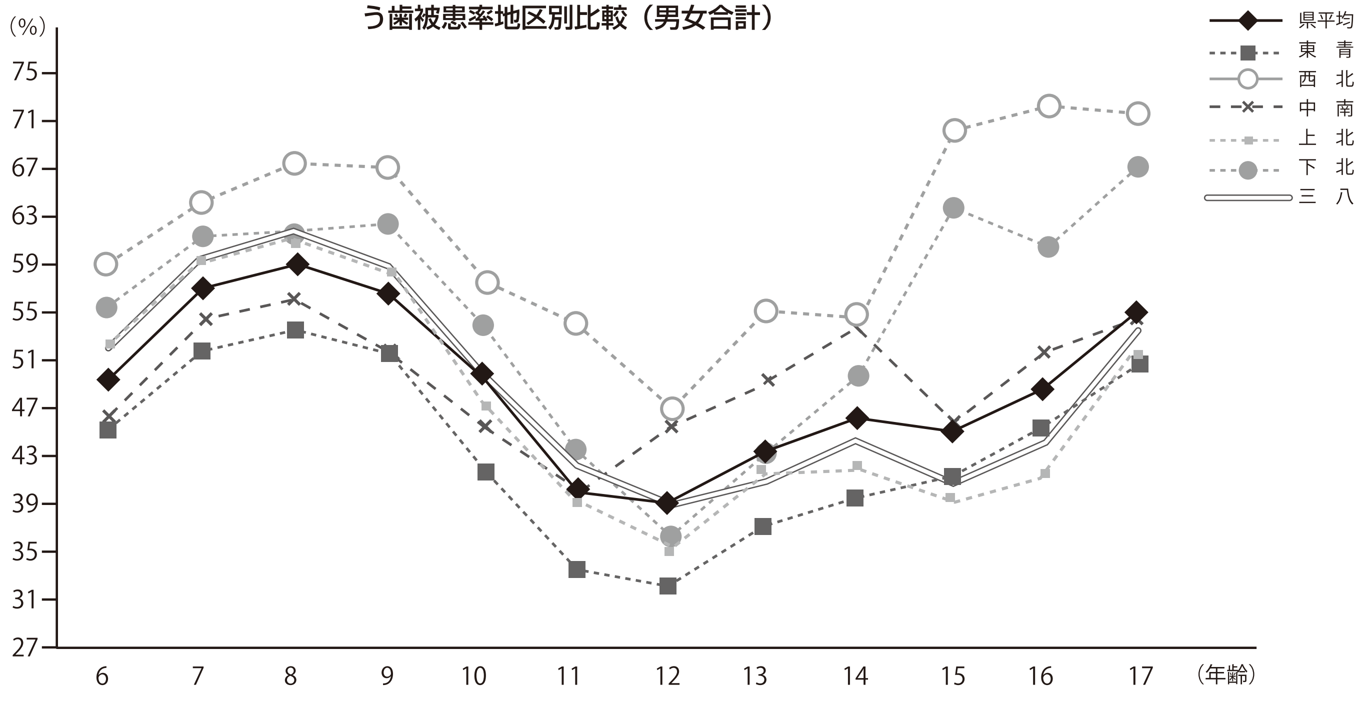
区分 国・県・年度		計（本）	喪失歯数（本）	う歯 計（本）	う歯 処置歯数（本）	う歯 未処置歯数（本）
全国	令和元年度	0.70	0.01	0.69	0.45	0.24
	令和２年度	0.68	0.01	0.67	0.42	0.25
本県	令和元年度	1.15	0.00	1.14	0.73	0.41
	令和２年度	1.08	0.01	1.07	0.64	0.42

「令和２年度児童生徒の健康・体力」より

過去12歳児 DMF歯数　全国比



う歯被患率地区別比較（男女合計）



「令和２年度児童生徒の健康・体力」より

令和２年度青森県市町村別ＤＭＦ歯数（学年別）

市町村名	小５年	小６年	中１年(12歳児)	中２年	中３年	高１年	高２年	高３年
青森市	0.38	0.50	0.83	1.10	1.34			
弘前市	0.41	0.72	1.24	1.54	1.92			
八戸市	0.61	0.78	1.23	1.47	1.73			
黒石市	1.28	1.28	2.27	2.58	3.26			
五所川原市	1.19	1.54	1.55	2.11	2.52			
十和田市	0.44	0.64	1.04	1.62	1.84			
三沢市	0.25	0.34	0.37	0.51	0.84			
むつ市	0.51	0.63	0.84	1.15	1.71			
つがる市	0.70	0.91	1.40	2.10	2.35			
平川市	0.57	0.81	0.98	1.56	2.04			
平内町	0.60	0.51	1.06	1.08	1.26			
今別町	1.00	1.22	2.80	1.31	1.70			
蓬田村	0.20	0.68	0.16	0.13	0.37			
外ヶ浜町	0.95	1.00	0.70	1.79	2.40			
鰺ヶ沢町	0.59	0.80	1.02	1.54	1.46			
深浦町	0.07	0.36	1.05	0.71	0.71			
西目屋村	0.25	0.50	-	-	-			
藤崎町	0.56	0.65	1.15	1.50	1.89			
大鰐町	0.40	0.19	0.76	0.00	0.00			
田舎館村	0.39	1.08	3.86	3.37	4.89			
板柳町	0.95	1.44	1.43	2.05	2.11			
鶴田町	0.85	1.28	1.28	1.48	1.64			
中泊町	0.53	0.90	0.53	0.92	1.45			
野辺地町	0.43	0.47	1.58	0.79	1.13			
七戸町	0.36	0.48	0.54	0.51	0.84			
六戸町	0.69	0.70	0.84	1.09	0.87			
横浜町	0.61	1.50	2.28	2.85	3.81			
東北町	0.50	0.81	0.93	1.88	1.01			
六ヶ所村	0.47	0.67	1.61	2.30	2.50			
おいらせ町	0.28	0.48	1.29	1.65	1.83			
大間町	0.75	1.60	1.88	2.45	2.59			
東通村	0.96	1.45	1.71	1.78	3.31			
風間浦村	0.50	0.50	1.63	1.00	2.75			
佐井村	0.56	1.47	1.30	2.00	2.54			
三戸町	0.69	0.64	2.94	2.18	3.21			
五戸町	0.88	0.69	0.26	0.19	0.39			
田子町	0.17	0.19	0.37	0.69	1.57			
南部町	0.90	0.73	0.95	1.56	1.29			
階上町	0.67	0.88	0.98	1.01	1.46			
新郷村	0.78	0.47	2.33	6.22	3.00			
計(学年)	0.53	0.72	1.08	1.40	1.69	1.85	2.21	2.57
計(学校種)	0.38		1.39			2.22		

コラム

第85回全国学校歯科保健研究大会

学校歯科委員会 委員 **稲村　裕之**
（三戸郡歯科医師会）

令和３年10月21日(木) 14：00～
東京都　有楽町朝日ホールにて第85回全国学校歯科保健研究大会がライブ配信で開催された。

主題及び副題
『生き抜く力』 をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して
ー学校での新しい生活様式ー

趣旨としては新型コロナウイルス感染症への対応が長期化する中、身体的距離を保ちながら、『新しい生活様式』が求められている。
また新型コロナウイルスへの対応は直接的感染対策だけではなく、日々更新されるさまざまな情報の中から不確かな情報に惑わされず、正確な情報を選択する。
これからの時代を生き抜く上では、エビデンスに基づいた正しい情報を選択し、正しい知識の基に自ら実践する力が今まで以上に重要となる。
そのため本大会では、健康寿命社会に向けた新たな学校歯科保健活動について研究を深めるというものである。

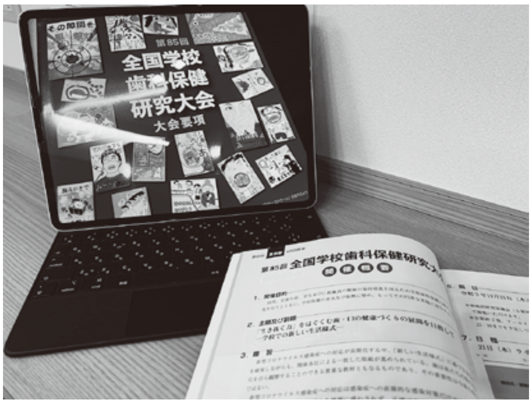
特別公演
東京藝術大学美術学部芸術学科　美術解剖学研究室
教授　布施　英利 氏

シンポジウム
座長 / 公益社団法人 日本学校歯科医会　副会長　拓殖　紳平 氏

基調講演
東京歯科市川総合病院　呼吸器内科　教授　寺島　毅 氏

シンポジスト
文部科学省初等中等教育局　健康教育　食育課
がん教育推進　係長　馬場久美子 氏
全国養護教諭連絡協議会　会長　小林　幸恵 氏
公益社団法人　日本学校歯科医会　理事　柴田　宏 氏

学校の規模や、地域によって問題は同じではないが、今後感染予防、新しい生活様式について正しい情報、正しい知識、何より大事なことは教育現場、医療機関など共通の認識を持つことが大切だと思う。
初のオンラインということであったが、音声トラブル等もなく、とても貴重な講演を自宅にて聞くことができた。実際に色々な方にお会いして、お話を伺わなければ得ることのできない経験がある。しかしながらオンライン開催によって本来移動に使う時間も有効活用できた。
今後も『新しい生活様式』の基に開催地が遠い場合でも参加できる先生方が増え、益々研究を深めることができるのではないだろうか。



報告

令和３年度歯科保健調査報告

令和３年度の学校歯科保健統計より

学校歯科委員会 委員 千代谷良子
（むつ下北歯科医師会）

令和３年度の学校歯科保健統計によると、青森県の 12 歳の永久歯の 1 人当たり平均う歯等数は、ようやく 1 本を初めて下回り 0.97 本で、令和２年度より 0.11 本減少し、過去最低を更新した。

0.97 本の内訳は、喪失歯 0.00 本、むし歯 0.96 本（処置歯 0.61 本、未処置歯 0.35 本）である。

県内のう歯被患率（処置完了者、未処置歯のある者）は小学校 51.0%、中学校 41.8%、高等学校 47.8%でいずれも低下している。

地区別では、大部分において各年齢層にわたり東青地区は被患率が低く、西北地区は高率であり、その差は依然として地域差が大きく、市町村の格差も大きい。各地区に共通して永久歯列になる 12 歳前後以降のう歯被患率が増加することから、思春期以降の管理が大切になると思われる。

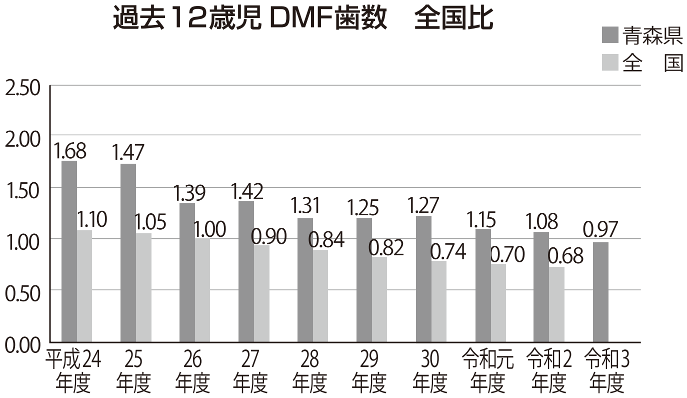
今後、置かれた環境衛生の中での歯科保健活動において、各学校・地域に即した新しい生活様式での工夫した口腔衛生指導を実践することが期待される。

永久歯の１人当たり平均う歯等数（12 歳児）

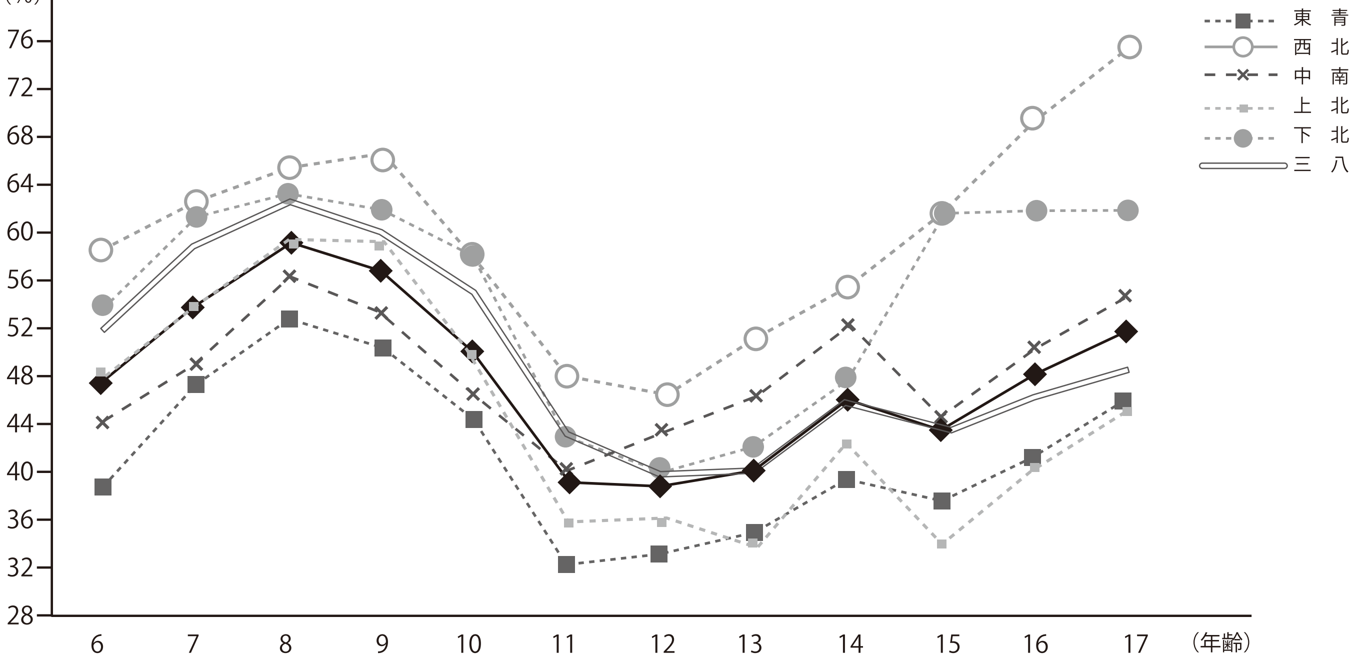
国・県・年度 ＼ 区分		計（本）	喪失歯数（本）	う歯 計（本）	う歯 処置歯数（本）	う歯 未処置歯数（本）
全国	令和２年度	0.68	0.01	0.67	0.42	0.25
	令和３年度	—	—	—	—	—
本県	令和２年度	1.08	0.01	1.07	0.64	0.42
	令和３年度	0.97	0.00	0.96	0.61	0.35

「令和３年度児童生徒の健康・体力」より

過去12歳児 DMF歯数　全国比



う歯被患率地区別比較（男女合計）



「令和３年度児童生徒の健康・体力」より

令和３年度青森県市町村別ＤＭＦ歯数（学年別）

市町村名	小５年	小６年	中１年(12歳児)	中２年	中３年	高１年	高２年	高３年
青森市	0.38	0.47	0.80	0.94	1.23			
弘前市	0.43	0.64	1.09	1.59	1.84			
八戸市	0.58	0.68	1.01	1.26	1.59			
黒石市	0.97	1.77	1.99	2.85	3.24			
五所川原市	0.86	1.32	1.31	1.91	2.21			
十和田市	0.53	0.59	0.84	1.13	1.80			
三沢市	0.17	0.25	0.50	0.54	0.63			
むつ市	0.80	0.81	0.78	1.28	1.60			
つがる市	0.64	0.95	1.38	1.65	2.41			
平川市	0.47	0.74	0.96	1.03	1.54			
平内町	0.33	0.33	0.66	1.53	1.68			
今別町	1.00	1.00	1.67	3.10	1.62			
蓬田村	0.30	0.37	1.24	0.55	0.32			
外ヶ浜町	1.62	1.70	1.26	1.11	2.74			
鰺ヶ沢町	0.45	0.50	0.50	1.08	1.47			
深浦町	0.43	0.38	0.46	0.85	0.66			
西目屋村	0.18	0.13	-	-	-			
藤崎町	0.32	0.45	1.42	1.52	2.01			
大鰐町	0.16	0.48	0.24	0.54	0.85			
田舎館村	0.78	0.63	3.04	3.15	3.80			
板柳町	0.62	1.16	1.26	1.70	2.33			
鶴田町	0.93	1.02	1.21	1.78	2.02			
中泊町	0.48	0.58	1.29	0.88	1.29			
野辺地町	0.81	0.74	1.29	0.40	1.38			
七戸町	0.27	0.30	0.49	0.68	0.68			
六戸町	0.33	0.74	0.83	1.01	1.10			
横浜町	0.73	0.42	2.13	2.24	3.12			
東北町	0.31	0.37	0.92	1.34	1.77			
六ヶ所村	0.86	0.93	0.78	1.88	2.51			
おいらせ町	0.27	0.35	1.38	1.57	1.75			
大間町	0.84	0.74	1.18	1.96	3.22			
東通村	1.34	1.46	1.85	2.19	2.69			
風間浦村	0.08	0.22	1.00	1.63	1.27			
佐井村	0.57	0.56	1.50	2.33	2.00			
三戸町	0.48	0.78	1.96	3.03	2.38			
五戸町	0.63	0.81	0.40	0.45	0.27			
田子町	0.12	0.35	0.53	1.00	0.64			
南部町	0.88	1.31	1.45	1.51	2.07			
階上町	0.68	0.50	0.81	0.97	0.97			
新郷村	1.67	1.35	0.81	2.78	5.33			
計(学年)	0.51	0.66	0.97	1.25	1.59	1.70	2.06	2.41
計(学校種)	0.35		1.27			2.07		

コラム

学校でのフッ化物洗口について

学校歯科委員会 委員長 **工藤　淳治**
（弘前歯科医師会）

青森県歯科医師会では学校でのフッ化物洗口を広げたいと考えています。

[青森県の状況] 青森県の子供のむし歯は減少傾向にありますが、全国平均から大きく遅れています。他県では学校での集団的フッ化物洗口を積極的に推進する方向となっていて、青森県の子供１人当たりのDMF 歯数は全国平均との差がさらに広がりつつあります。さらに、むし歯は一部の子供たちに集中しており、学校の中でも大きな健康格差が存在しています。また、前出の令和２年度歯科保健調査報告にあるように、青森県内では地域間の格差も大きく、改善が必要です。

[フッ化物洗口の必要性] フッ化物洗口を集団で行うことで、子供たちが平等にむし歯予防を受けられるという点で、その健康格差、地域間格差の改善が期待できます。学校でのフッ化物洗口はむし歯を予防し、歯の喪失を減少させ、将来の健康の維持に対して有効な手段となります。現在、県内の児童生徒等の大半は希望してもフッ化物洗口を受けることができない状況にあり、学校におけるフッ化物洗口の取組を一層推進する必要があります。歯科医院や家庭でのフッ化物洗口と比較しても継続性が高く、さらに子供の健康意識の向上につながるなど、大きなメリットがあります。早くからフッ化物洗口を始めている三沢市は急速に改善しています。現在つがる市、大間町、鰺ヶ沢町などはフッ化物洗口が始まっています。

[フッ化物洗口は安全に関して] 国が示した「フッ化物洗口ガイドライン」では、適正な濃度と量を守っていれば、たとえ誤って１回分の全量を飲み込んでも健康被害が発生することはないと示されています。急性中毒、慢性中毒試験の成績からも安全が確認されています。さらに、WHO をはじめとする世界の専門機関も安全性を認め、むし歯予防に効果的な方法として推奨しています。以上のことから学校におけるフッ化物洗口の取り組みを推進する必要があると考えています。

令和４年度の予定

募集関係

■図画・ポスター・標語コンクール

締　切　令和４年６月30日（木）
審査会　令和４年７月９日（土）

■青森県歯科保健優良校表彰書類審査会

令和５年１月21日（土）
※応募締切は地区により異なりますので、要項をご覧ください。

県審査会への締切（地区から県へ）
令和４年12月23日（金）

■「歯・口の健康児童」県審査会

今般の情勢により、参集しての県審査会は行いません。
県審査会へ推薦のあった児童は一律入選とします。
※応募締切は地区により異なりますので、要項をご覧ください。

県審査会への締切（地区から県へ）
令和４年12月23日（金）

※募集要項は４～５月に各園、学校へメール通知または郵送されます。また、本会ホームページへも掲載予定です。応募の際は募集要項をご確認の上、各園、学校で取りまとめてご応募下さい。

大会関係

■青森県学校歯科保健研究大会

（青森市　青森県歯科医師会館、ハイブリッド開催）
令和４年７月28日（木）

■第86回全国学校歯科保健研究大会

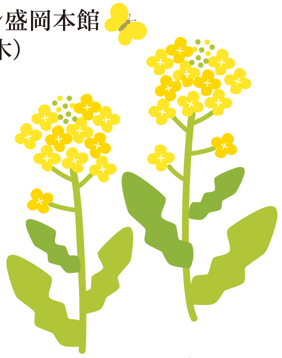
（山梨県甲府市）
甲府市YCC県民文化ホール（山梨県立県民文化ホール）
令和４年10月20日（木）

■令和４年度全国学校保健・安全研究大会

（岩手県盛岡市）
盛岡市民文化ホール／いわて県民情報交流センター
令和４年11月10日（木）～11日（金）

■第72回全国学校歯科医協議会

（岩手県盛岡市）
ホテルメトロポリタン盛岡本館
令和４年11月10日（木）



現時点での予定です。
今後の情勢等により変更になる可能性があります。

編集後記

12月５日に十和田市民文化センターにて、ドキュメンタリー映画「弁当の日」の上映の手伝いをしてきました。主催は十和田市弁当の日応援団、上十三歯科医師会の大友聡之先生を中心に、無料上映会を開きました。新型コロナ感染予防対策として、人数制限の事前申し込み制でした。満員御礼400名弱での開催で、医療、教育、食育関係者、数名の市会議員もおりましたが、親子での一般参加が大多数でした。食を通して子供の生きる力を育む「弁当の日」の取り組みの映画に感動。上映会スケジュール、予告動画は公式ウェブサイトに有ります。

学校歯科委員会 委員 **坪田亘基**（上十三歯科医師会）

発　行　者／一般社団法人青森県歯科医師会　〒030-0811 青森市青柳一丁目3-11　TEL017-777-4870　FAX017-722-4603
学校歯科委員／委員長：工藤淳治　副委員長：葛西治千代　担当常務理事：小林克徳
委　員：神山陽介、石橋洋幸、児玉丹奈、久米田譲、千代谷良子、坪田亘基、稲村裕之

この学校歯科委員会だよりは青森県歯科医師会ホームページでもご覧いただけます。青森県歯科医師会ホームページアドレス：http://www.aomori-da.org/